

L)で複数の原体を使う例があり、L RにRの付加条・R LにLの付加条があり、縄文のあとにナデ、「無文」と呼称したナデ調整のみの例がある。また、多条縄文は看取できたよりも多用されている可能性がある。

底面の文様 深鉢・浅鉢・台付浅鉢・壺はR L縄文が多用され、胴部の原体と同じものを用いて施文されている。鉢は弱いナデ、舟形鉢は文様▽弱いナデが多用される。

規格と施文 有文率は、深鉢大で81% (22/27例)、深鉢中で45% (41/92例)、深鉢小で10% (4/41例)、深鉢袖珍で27% (3/11例)であり、規格の大・小側で有文率が上がる。浅鉢は浅鉢大で27% (3/11例)、浅鉢中で23% (14/60例)、浅鉢小で19% (5/27例)、浅鉢袖珍で8% (1/13例)であり、浅鉢は低く、規格の減少と有文率の低下は相応する。鉢(6/8例)・台付浅鉢は(8/10例)規格に関係なく有文率が高い。

深鉢大・中は埋けて使われる、補修孔が多い=丁寧に使われることから、深鉢大・中は日常の用途とは異なる扱いの方があり、有文は深鉢大・中に多い。有文=非日常、無文=日常の違いがあるとすると、深鉢袖珍・鉢・台付浅鉢は非日常、浅鉢は日常に用いられる傾向があったと考えられる。

器種組成 深鉢:浅鉢:鉢:台付浅鉢:舟形鉢:壺:その他=32:19:1:1.5:1:5:0.5であり、主要器種は深鉢・浅鉢である。深鉢は深鉢大:深鉢中:深鉢小:深鉢袖珍=3:8:4:1であり、深鉢中・小が主要規格である。浅鉢は浅鉢大:浅鉢中:深鉢小:浅鉢袖珍=1:6:3:1であり、浅鉢中・小が主要規格である。

2 編年の検討

(1) ママチ遺跡の群分類について

土器集中1出土土器の特徴は、粘土紐接合面が外傾すること、丸底を凸平底に変形させて底面を成形すること、後的に作出された底面の径が7.0~8.5cmという小ささであること、胴部装飾は2段撲りの長い原体による斜位回転縦走縄文が主体であることであり、文様・器形の特徴はタンネトウL式以降の型式未設定の晩期末葉～続縄文初頭の土器群である。『ママチ遺跡』(北埋調報9集 1983年)の分類に当てはめると、IV・V群にほぼ該当する。

道央部晚期後葉の非大洞系の土器編年については土器集中3(『対雁2遺跡(3)』北埋調報177集 2002年)において検討した。その要点は、IV群(平行沈線文を主体として蛇行沈線が加わり、舟形土器が出現する)とV群(曲線文・弧線文を主体とする)の別を認めるか否かである。設定根拠は層序関係に基づく頻出文様の違いである。別を認めない根拠も同様である。

ママチ遺跡の土器塚はI黒層下部にあるIV群主体の遺構である。土器塚上面近くではV群の土器が少量出土している。このことはIV群とV群が上下に堆積している経時的関係を示す。しかし、一括性は高いものの個体数が少ないため、文様組み合わせの漸移的变化が含まれていなかつた可能性も残される。いっぽう、横位平行沈線を主要な文様とするIII群とIV群の中間群、あるいは3類と4類(中田裕香「まとめ 土器」『ママチ遺跡Ⅲ』北埋調報36集 1987年)の中間形があり、蛇行状沈線を伴わないIV群とV群の中間群、あるいは4類の細分があることになる。土器集中3が包含層に較べて一括性が高いことはいうまでもないことなので、従来の分類に問題があることになる。そこで、土器集中3の分析においてはママチ遺跡の群分類を棄却し、今回もママチ遺跡の群分類を使用しない。

(2) 土器集中1の編年上の位置付け

表VI-1は有文・縄文のみの中で接合関係が上層または下層の中で接合している個体、上層と下層で接合しているが中層によって隔てられていない個体を層ごとに属性件数をまとめたものである。表VI-2はそれら個体の主文様の組み合わせ、描順規則を細別層における出土状況を表したものである。

表VI-1 層別・表出的属性集計

2 編年の検討

表VI-2 層別出土状況

掲載 No.	器種・規格	文様	描順規則	上層			中層			下層			
				上			中			下			
				①	③	⑤	⑥	④	⑦	上部	下部	1回目	2回目
1	深鉢・大	横位沈線	b 1-2	●									
6	深鉢・中	横位沈線	b 1-2		●								
3	深鉢・?	横位沈線	b 1-2		●								
5	深鉢・大	横位沈線	b 1-2		●								
7	深鉢・中	横位沈線	b 1-2		●								
2	深鉢・?	横位沈線	b 1-2		●								
9	深鉢・中	横位沈線	b 1-2		●								
8	深鉢・?	横位沈線	b 1-2		●								
10	深鉢・?	横位沈線	b 1-2		●								
11	深鉢・?	横位沈線	b 1-2		●								
12	深鉢・大	横位沈線	b 1-2		●								
13	深鉢・中	横位沈線	b 1-2		●								
14	深鉢・?	横位沈線	b 1-2										
15	深鉢・中	横位沈線	b 1-2										
16	深鉢・袖珍	横位沈線	b 1-2										
18	深鉢・大	横位沈線	b 1-2										
17	深鉢・?	横位沈線	b 1-2										
25	深鉢・?	横位沈線	b 1-2										
30	深鉢・?	横位沈線	b 1-2										
29	深鉢・中	横位沈線	b 1-2										
31	深鉢・?	横位沈線	b 1-2										
22	深鉢・?	横位沈線	b 1-2										
20	深鉢・中	横位沈線	b 1-2										
21	深鉢・中	横位沈線	b 1-2										
23	深鉢・中	横位沈線	b 1-2										
41	深鉢・中	横位沈線(連続山形)+(蛇行)	b 2-2		●								
32	深鉢・大	横位沈線+(蛇行)	b 2-2										
33	深鉢・?	横位沈線+(蛇行・綫短線)	b 2-2										
36	深鉢・?	横位沈線+(蛇行)	b 2-2										
37	深鉢・大	横位沈線+(蛇行)	b 2-2										
35	深鉢・中	横位沈線+(蛇行)	b 2-2										
34	深鉢・大	横位沈線+(蛇行・綫短線)	b 2-2										
50	深鉢・中	横位沈線(連続山形)+(蛇行)	b 2-2		●								
42	深鉢・中	横位沈線+(蛇行)	b 2-2		●								
39	深鉢・大	横位沈線+(蛇行・綫短線)	b 2-2										
40	深鉢・?	横位沈線+(蛇行)	b 2-2										
43	深鉢・?	横位沈線+(蛇行)	b 2-2										
45	深鉢・中	横位沈線+(蛇行)	b 2-2										
46	深鉢・?	横位沈線+(蛇行)	b 2-2										
47	深鉢・中	横位沈線+(蛇行)	b 2-2										
48	深鉢・?	横位沈線+(蛇行)	b 2-2										
41	深鉢・大	横位沈線+(蛇行)	b 2-2										
52	深鉢・中	(台形刺突)/弧線・波状+(沈線)	b 3-1		●								
54	深鉢・中	弧線・波状+(沈線)	b 4-3										
55	深鉢・?	弧線+(沈線)	b 3-1										
57	深鉢・大	波状(円刺)+ (沈線)	b 3-1										
60	深鉢・?	横位沈線/波状+(沈線)	b 2-1		●								
62	深鉢・?	横位沈線/波状+(沈線)	b 2-1		●								
63	深鉢・大	波状・弧線+(短沈線)/横位沈線	b 2-1										
64	深鉢・大	波状・弧線+(短沈線)/横位沈線	b 2-1										
65	深鉢・小	横位沈線/弧線	b 2-1										
66	深鉢・中	(台形刺突)/工字沈線	b 4-3		●								
67	深鉢・中	工字沈線	b 4-3										
68	深鉢・大	工字沈線/弧線+(短沈線)	(b 2・工字沈線-1)										
53	深鉢・中	(台形刺突)/弧線・波状+三角+(短沈線)	b 3-1		●								
55	深鉢・	弧線・波状・三角	b 4-3										
59	深鉢・?	(台形刺突)/弧線・三角+(短沈線)	b 4-3										
69	深鉢・大	波状・波状・三角/工字沈線・(刺突)	(b 2・工字沈線-1)										
61	深鉢・中	(台形刺突)/三角・菱形/横位沈線	b 2-1		●								
72	深鉢・?	変形工字文II+(蛇行)	b 3-2										
71	深鉢・?	変形工字文II+(蛇行)	b 3-2										
73	深鉢・中	変形工字文II+(蛇行)	b 3-2										
74	深鉢・中	変形工字文II(交点刺突)+(蛇行)	b 3-2										
75	深鉢・中	変形工字文II+(蛇行)/横位沈線	b 2-1										
51	深鉢・?	横位沈線+(蛇行)/菱形	b 2-1										
124	深鉢・中	(台形刺突)/横位沈線/三角+(連続山形)	b 2-1		●								
123	深鉢・大	横位沈線/工字文+(円形刺突)	b 2-1		●								
125	深鉢・中	工字沈線/横位沈線	b 2-1		●								
126	深鉢・中	横位沈線/弧線+(連続山形)/横位沈線	b 3-1		●								
127	深鉢・中	横位沈線	b 1-2		●								
128	深鉢・?	工字沈線+(円形刺突)	b 3-1		●								
131	深鉢・小	変形工字II+(短沈線)	b 4-3										
402	台付深鉢・中	波状+(刺突)/横位沈線	b 3-1		●								
165	鉢・中	波状・菱形	b 3-1		●								
167	鉢・中	菱形+(短沈線)/横位沈線	b 2-1		●								
164	鉢・中	横位沈線	b 1-2		●								
166	鉢・中	横位沈線+(短沈線)	b 1-2		●								
169	舟形鉢	菱形・弧線/横位沈線	b 4-3		●								
168	舟形鉢	弧線+(短沈線)/横位沈線	b 3-1		●								
189	注口	菱形・弧線	b 3-1		●								
172	垂	波状・弧線+(沈線)	b 4-3		●								
171	垂	工字沈線	b 4-3		●								
173	垂	弧線+(沈線)	b 4-3		●								
174	垂	横位沈線	b 1-2		●								
176	垂	無文											
175	垂	工字沈線+(沈線)	b 3-1		●								
177	垂	工字沈線+(沈線)/(連続山形)	b 4-3		●								
183	垂	横位沈線/(沈線)	b 1-2		●								
178	垂	工字文+(沈線)	b 4-3		●								
179	垂	弧線・波状+(沈線)	b 3-1										
181	垂	無文											
188	垂	波状・三角/横位沈線	b 3-1										
180	垂	横位沈線	b 1-2										
182	垂	横位沈線	b 1-2										

*「/」は主文様の配置が上下にあり、「・」は並列にあることを示す。 + (○○)は副文様・区画文様が付加を示す。 中黒丸の下線は最多出土層を示す。

表出的属性について変遷を検討する(中層が接合関係を隔てない個体は除く:表中の網掛け個体)。

形態 深鉢の口唇部断面形の出現比は、下層は端面内傾:端面水平:丸い=5:1:1、上層は端面内傾:端面水平:丸い=1.4:1:1であり、端面水平・丸いが急増する。浅鉢も端面水平・丸いは急増する。深鉢の器壁傾きの出現比は、下層は外傾:直上:内彎=5:1:0、上層は外傾:直上:内彎=10:7:1であり、直上が急増し内彎が現れる。浅鉢にその傾向はない。深鉢の底面の出現比は、下層は凸平底:平底=2.7:1、上層は凸平底:平底=1:1.9であり、平底が急増し揚げ底が現れる。浅鉢の急増は深鉢より著しい。

調整・文様 深鉢の口唇・突起部文様の出現比は、上層からナデのまま・2段撫り縄压痕・台形刺突・沈線が出現する。浅鉢においては深鉢とやや異なり台形刺突・沈線が出現する。深鉢の主文様の出現比は、下層は横位沈線:並列弧沈線:波状沈線:工字沈線:変形工字沈線Ⅱ=8:1:1:1:1、上層は横位沈線:並列弧沈線:波状沈線:工字沈線:変形工字沈線Ⅱ=16:2:4:1:2であり、波状沈線がやや増加し、工字沈線は減少する。浅鉢においては下層例に乏しく詳細は不明である。上層は横位沈線:並列弧沈線:並列三角沈線:工字沈線=5:1:1:3であり、深鉢に比べて工字沈線が多い。深鉢の胴部・底部文様の出現比は、下層はLR斜位縦走:RL斜位縦走=1:14であり、上層はLR斜位縦走:RL斜位縦走=1:21であり、RL斜位縦走が増加する。浅鉢においては下層例に乏しく詳細は不明である。上層はLR横位斜走:RL横位斜走:RL斜位縦走=1:4:2であり、深鉢に比べて横位斜走が多い。

表VI-2によれば、平行沈線文は下層下～上層上、平行沈線文+蛇行沈線(分断文様)は下層下～上層下、弧線V波状沈線+(沈線)は上層下～上層上、平行沈線文/波状文・弧線文は上層下～上層上、工字沈線文は下層上～上層上、三角沈線文は下層上～上層上、変形工字沈線文Ⅱ+蛇行沈線(分断文様)は下層下～上層中、から出土する傾向にある。

描順規則と出土層位との関係比は、下層はb1-2:b2-1:b2-2:b3-1:b3-2:b4-3=5:2:1:0:0:1、上層はb1-2:b2-1:b2-2:b3-1:b3-2:b4-3=8:3:4:4:1:4である。上層ではb2-2:b3-1:b3-2:b4-3が急増し、上平行沈線文とその他文様の結びつきが弱い描順規則が顕著である。

編年に関わる特徴は、「変形工字沈線文Ⅰ」・「変形工字沈線文Ⅱ」があり両者が混在すること、「交点」を表現した管状刺突(深鉢の74・223)・沈線状の割り込み(深鉢の69・223、舟形鉢の170・388・403、壺の178・187・393・417、台付浅鉢の402)があること、台形・三角形に窪ませる刺突文(図版IV-34-52・53の突起先端の内面側参照)が口唇部にあること、蛇行線文+変形工字沈線文Ⅱ(元来は平行沈線文と組み合わさり工字沈線の意匠を表していた)であり、在地系の要素でありながら大洞式にある変形工字文との関連を示す。「変形工字沈線文Ⅰ」は変形工字文の三角文の一段構成、「変形工字沈線文Ⅱ」は変形工字文の三角文の二段構成にあたる。

表VI-3は北海道縄文晩期後葉の在地系土器の表出的要素を時系列に表してある。筆者が以前発表(前出、鈴木 信・西脇対名夫 2003年)したものに今回の成果を加えて修正した。これによると、土器集中1の土器はV・VI期にあてはまり、土器集中3の土器はIII・IV期にあてはまる。

ところで、『対雁2遺跡(5)』北埋調報204集(2004年)において、砂沢式に併行するH37丘珠期(古)の深鉢(鈴木 信「道央部における続縄文土器の編年」『ユカンボシC15遺跡(6)』北埋調報192集(2003年)が出土したと報告した(図V-1-1)。この土器には弧線文の下位に刺突文が施されており、H37丘珠期(中)に当てはめることが妥当である。沈線間に刺突文を充填する意匠は砂沢式においては新しい傾向であるという(根岸 洋「砂沢式再考」『研究紀要18』埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2003)。土器集中1上層にはそのような意匠はないのでH37丘珠期(古)以前に当てはまる。そして、「変形工字沈線

文Ⅰ」・「変形工字沈線文Ⅱ」の混在、つまり「一段構成」と「二段構成」(主文様帶の段数、つまり描順規則b 2-1のことではなく、主文様内での上下反復意匠のことである)の混在は主に上層で起こる。根岸によれば「一段構成」と「二段構成」の混在は砂沢式古に見られる状況である。

なお、土器集中1の「二段構成」は根岸の「B構成」に当たり、「A構成」と思われるのは壺172・392のみである。以上より、上層はVI期・砂沢式古・H37丘珠期(古)にほぼ対応し、下層はVI期・大洞A'式を含む時期と考え、土器集中3の土器は大洞A後半～A'式併行と考える。

また、補正¹⁴C年代値は上層;2430±40～2460±40、中層;2460±40、下層(⑦層～⑨層);2500±40～2530±40であり、遺物の少なさからみて、中層において遺構形成が一時休止したと推定する。

H37丘珠期(中)土器が出土した生活面「15-95」に直近する焼土(生活面「15-98」)から出土した炭化物の補正¹⁴C年代測定値は2450±40 BP・ $\delta^{13}\text{C}:-24.0$ (TK 2-51)であり、土器集中1のA. M. S. 補正¹⁴C年代測定値は2530±40～2430±40y. BPであり、土器集中3の補正¹⁴C年代測定値をもとに、V期:2465±40yB. P. ~2430±40yB. P.、VI期: 2430±40yB. P. 以降と推定した。これらはほぼ妥当な関係にあるが、生活面「15-98」の焼土出土炭化物の年代測定値2450±40 B. P. と割り振ったVI期:2430±40yB. P. 以降についてデータの蓄積を待って再考する必要がある。

なお、表VI-3のI・II期については型式学的操作の成果であるから、『対雁2遺跡(9)』において層位的検証がなされるであろう。

(鈴木)

表VI-3 属性等一覧

表出の属性	I 古 新	II 古 新	III	IV 古 新	V 古 新	VI
口縁部突起	口縁部外面に貼付する、立体的				口縁端面に貼付する、平面的	
口唇部断面	端面内傾					
	端面やや内傾					
	端面水平					
底部断面	凸底					
	凸平底					
	平底					
口唇部文様	1段燃り繩圧痕					
	2段燃り繩文					
	棒圧痕					
	ナデのまま					
	2段燃り繩圧痕					
	台形・三角刺突					
文様帯下地	ナデのまま					
	繩文					
主文様	連結括弧文					
	括弧文					
	縦位連繋括弧文					
	方格圈線文					
	平行繩線文+刺突					
	平行沈線文+刺突					
	斜位・縦位線文					
	断続山形文					
	連続山形文					
	渦巻文					
	平行繩線文					
	平行沈線文					
	蛇行線文					
	楕円圈線文					
	波状線文					
	交互弧線文					
	並列弧線文					
	並列三角文					
	変形工字文Ⅱ					
副文様	短沈線					
	刺突					
	突瘤・円形刺突(外面から)					
区画文様	ナデ消し凹帯の上方貫入		あり			
	ナデ消し凹帯+刺突					
	刺突					
	連続山形沈線					
	横位沈線					
分断文様	分断文様					
	LR横位斜走					
	RL横位斜走+斜位縦走					
	RL横位斜走					
	RL斜位縦走					
	RL横位斜走+斜位縦走・長					
	RL斜位縦走・長					
描順規則		a1、a2、b4-1	a3、b1-1、b4-2	a3、b1-2、b4-2	b1-2、b2-1、b2-2、b3-1	b1-2、b2-1、b2-2、b3-1、b3-2、b4-3
主文様帯	段数	単段	単段	単段	単段・複段	単段・複段
	展開	・横位に	・横位で上下に伸長	・横位で上下に伸長	・文様が横位並列に・横位に	・文様が横位並列に・横位に
主文様単元	配置	・均等小單元の並列	・均等小單元の並列	・均等小單元の並列	・單一大單元を小單元が分断	・大單元と中小單元が上下に
		・單一大單元		・單一大單元	・大單元と中小單元が上下に	・均等中單元の並列
	大きさ	小單元	小單元 大單元	小單元 大單元	小單元 中單元 大單元	小單元 中單元 大單元
原体など	背景文	櫛目、繩線	沈線			
	上描き文	櫛目、繩線	沈線、繩線			
	直描き文			沈線、繩線	沈線	沈線
従来の分類	種市(1983)	II群	III群	IV群	IV群・V群	V群
	中田(1987)	2類	2類・3類	3類・4類		4類

* 主文様の大きさは、文様帯全周の1/1～約1/5：大、文様帯全周の約1/6～約1/9：中、文様帯全周の約1/10以下：小である。